

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・職員で共有している。 ・掲示して、いつでも目につくようにしている。	理念は事務所などに掲示しており、職員も共有されています。面談した職員からも「利用者様が、その人らしく生活できることに努めています」との話が伺え、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・どんど焼き等のお誘いがあるが、感染症のため参加できず。 ・花祭り、文化祭など地域のお祭りへの参加。 ・地域の方が 野菜や果物をくださる。	コロナ禍の影響で地域との付き合いは限られてしまいましたが、関係を続けられるよう出来る事はやるという姿勢が見られます。年2回の地域清掃、文化祭への出展、見学、年賀状のやり取りなどを通じて、地域とともに歩む姿勢が伝わります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・中学生のボランティアとの交流。 ・他施設との交流(コロナのため中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	・奇数月での会議で、施設からの状況報告をし、地域の方から情報をいただく。	運営推進会議の議事録は、利用者様の状況や活動内容などが記載され、特に意見・要望・応答が詳細に記録してあります。職員には会議の中で口頭にて報告し、共有されています。	口頭での報告は忘れてしまうこともあります。有意義な意見もあるので議事録を職員に回覧するなどしたらと思います。実行したことは次回の推進会議での報告もと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・必要な情報等 電話やメールにて交換している。役場に出向き話をしている。	運営推進会議で利用者の状況や事業所の活動を報告し、助言をいただいています。コロナ禍では、ファックスや電話で意見交換し、協力関係はできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・勉強会をして、理解し、取り組んでいる。やむをえない時は、必要最小限として、ご家族に説明し同意を得ている。	身体拘束防止マニュアルがあり、会議や勉強会の中で、拘束しない取り組みについて職員も理解を共有しています。点滴でやむを得ず腕を拘束した事例がありましたが、ご家族にも説明し同意を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・職員会で勉強会を行い、理解できるよう努めている。 ・言葉使いや声かけについて留意するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・職員会で勉強会の機会を設け、理解に努め、権利が保障されるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・入居契約時にご本人やご家族の希望や不安などを、言いやすい雰囲気の中でお聞きし、契約締結できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・家族会はあるが、コロナの為、開催できていない。 ・アンケートをとった事もあった。	毎月ご家族へ担当者から一筆啓上、写真も添付したお便りを出して安心していただいています。ご家族との信頼関係を重視して、電話などの際に意見・要望が言える環境に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・個々の職員との面談で、要望や意見を聞き反映できるようにしている。	事業所は意見が言いやすい環境にあり、日々の業務の中で管理者に伝えています。施設長との面談もあり、出来るものは反映し業務改善に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・施設長との面談。 ・職場環境など気づいた時は上司に報告し、働きやすくして頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・気づいた時に、その場その場で指導を頂いている。 ・職員会で、資料等にて力量を高めあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・今まで他のグループホームと交流していたが、コロナ禍のため中止になっている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・面接して生活環境を理解し、ご本人やご家族の不安や要望を理解して、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・ご家族との面談の時に要望や不安がないかしっかりと聞き、全てを受け止める気持ちで、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・ご本人やご家族が必要としている支援を把握して、受け入れ準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・日常生活を共に過ごす者として、関係を築いて人生の先輩として教えていただくこと、注意していただくことなどを受け止め、温かみのある生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・ご本人とご家族の絆を大切にし、面会や電話、またテレビ電話などでお話ができるように配慮しながら、ご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・ご本人が大切にしてきた人や場所などの思いが継続できるよう、お話を伺えるような関係を築いている。	コロナ禍で制限がありますが、床屋さんやお墓参りなどの関係は大切にしています。野菜を届けてくださる地域の方のことを利用者様にお話し、ありがたさを一緒に共有しています。年賀状のやり取りもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者同士の会話の場やレクリエーション、家事の手伝いをする時など、一緒に会話などをしながら出来るように、雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・年賀状や暑中見舞いのやりとりをし、気楽に立ち寄っていただけるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・生活歴や情報提供書などをもとに、ご本人やご家族の希望や不安を伺っている。	ご家族や利用者様からお聞きした生活歴、現在の様子などから担当者がご家族の思いと意向を聞いています。家族アンケートでもほとんどのご家族は、本人の思いや願い、要望を職員は理解しているとあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・事前面接などを参考にして、これまでの、利用者様の一日の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・生活の中から利用者様個人の有する能力を把握したり、現状における一日の過ごし方などを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・一ヶ月に一回のカンファレンスを行い、問題や課題を話し合い、計画を作成している。 ・他関係者に事前に伺っている。	全員で月に一回カンファレンスを行い、その人らしく暮らし続けるための介護計画が作成されています。事前に医師などに意見を求め、カンファレンスに反映しています。	施設サービス計画書の総合的な援助の方針で「○○支援します」とありますが、支援するための具体策があればと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個々の生活日誌や連絡ノートに記入し、情報を共有して計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・利用者様とご家族の状況や意見に合わせ、病院の付き添いや送迎をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・農家の方が野菜などを持ってきてくださる、利用者様が下処理などをしてくださる。(ボランティアの方は、コロナ禍のため中止)		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・かかりつけ医との関係を築き、ご本人やご家族の意向を第一に考え、納得してグループホーム内外で受診できるように支援している。月に一回は往診してもらっている。	入居時に主治医の説明をし、ご家族からは今までのかかりつけ医について説明を受けます。選択肢はご家族にあることを説明しています。通院は医師に説明できる資料をご家族に渡し、その報告も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・体調不良の時は連絡を取り合い、医師への連絡や指示を受け、対応出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、面会可能な場合は面会し、面会不可の場合は、看護師に話を聞いている。退院時にスムーズに移ることが出来るように対応している。病院の会議に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入院時に希望を伺い職員間で情報の共有をしている。 ・かかりつけ医と直接話ができる機会を設け、同意のもと連携し、終末期の取り組みを行っている。ご家族に見守りをさせていただいている。	重度化や終末期に向けた話し合いは、ご家族と初期に話し合います。終末期に向けた指針はご家族も理解をし、職員も共有しています。日々変化する利用者様の様子は、主治医のもとご家族・事業所が連絡を取り、見守りをします。看護師3人態勢で事業所の体制はできています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・緊急時の対応は職員間で確認し、看護師から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災訓練。 ・運営推進会議や地域に協力を依頼している。	事業所の地区は13戸あり、一部住民は防災訓練に参加し、車いすを押しての避難などに協力しています。地震などの対策は書棚等が倒れない配慮がしてあります。備蓄もあり、災害を想定した対策ができています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・利用者様の尊厳について職員会などで話し合い、適切な言葉使いや対応について検討している。	利用者様の尊厳は守る、という姿勢が見られます。月1回の会議で気になる言葉をかけた事例を具体的に取り上げ、反省の機会を設けて次につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・ご本人希望の表出を大切にしている。 ・自己決定は人権を守る一歩と考え、そのため言葉かけに留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・ご本人の生活リズムに沿って日々を送れるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・ご本人手持ちの衣類を季節ごとに入れ替えて、一人ひとりの希望に沿っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・ご利用者と一緒に行っている。 ・時期の物を取り入れて季節感を大切にしている。	食事は三食事業所で作ります。献立は担当になった職員が作り、利用者様の好みに合わせたりして食を楽しみます。季節感のある料理はお手伝いをする利用者様の五感にも響き、食べる意欲がわいています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事には汁物をつけ、午前午後のお茶の時間には好きな飲み物を準備している。 ・摂取量を考え、代替品を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・食後洗面所にて口腔ケアを行い、夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・トイレでの排泄を基本として、個々の間隔を把握し、声かけをしながら誘導している。 ・オムツを使用せずパット対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・食事は、3食汁物をつけ、野菜を取り入れ、水分の摂取にも気をつけている。 ・好きな物を飲んでいただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・一人ひとりの体調や希望に合わせて、ゆっくり温まっていただけるように支援している。	利用者様に合わせ、二日に一回のペースで入浴をしています。リフト浴もあり、安全・安心対策のため職員が試乗して、気を付けなければいけないことを体験しています。入浴剤など使用し、楽しんでいただけるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・就寝は個々のペースに合わせている。 ・寒暖に合わせて、エアコンや床暖房、湯たんぽを使用し、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の処方を理解し、副作用などを理解し、飲み忘れないよう支援している。飲み込みの確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・一人ひとりの得意分野を把握し、出来ることをやっていただいている。 ・一人ひとりの嗜好品を把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・コロナやインフルのため、外出することができなくなっている。 ・天気のよい日は、グループホーム内の庭などの散歩をするようにしている。	感染症の為、外出は控えています。その分自然環境の良い事業所の周囲を散歩し、目の保養やストレスの発散に努めています。	感染症がどの程度になったら外出ができるのかの基準があればと思います。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現金を預かっている利用者様はいない。 ・必要な物はご家族に連絡し購入、後日請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・ご家族からの電話の取りつぎ、ご本人がかかけたいと言えれば利用していただいている。 テレビ電話も使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・掃除が行き届き、花を生けて季節感を感じられ、気持ち良く過ごしていただけるようにしている。	木を基調とした共有スペースは落ち着いた雰囲気があります。利用者様が制作した作品も飾られて、季節感が醸し出されています。生花を置いておくと利用者様が生けてくれ、環境に一役担っています。共有スペースは利用者様と職員の温かさを感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・椅子や長椅子を備え、利用者様がくつろげる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居時に家での使い慣れたベットやタンスを持ってきていただいている。 ・ご本人とご家族で部屋の配置を決めてもらっている。	お部屋はご家族、利用者様が用意されたものがあります。持ち込まれた写真はお孫さん、ご家族の笑顔が利用者様に語り掛けています。お部屋はその人らしく個性があり、花も飾られていてきれいです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・トイレは居室の近くに配置して分かりやすくなっている。 ・廊下、浴室トイレには安全のための手すりを設置してある。		